

## 第1章 既存建築物のユニバーサルデザイン評価 (UD評価)

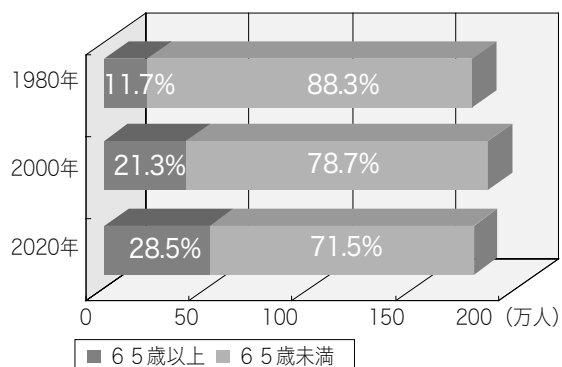
### 1-1.UD評価の背景

ユニバーサルデザイン (UD) とは、年齢、性別、国籍 (言語) や障害の有無に関係なく、誰もが利用しやすい製品、建物、環境などをデザインすることです。

本県では、全国に比べ高齢化が進んでおり、本格的な少子高齢社会を迎えています。

また、人々の価値観やライフスタイルの多様化に伴って、子育てをしながら社会的活動に参加する人が更に増えていくことが予想されます。

このような社会的環境の変化に対応するとともに、ノーマライゼーション (※1) の実現、男女共同参画社会の形成などに向けて、建物に対する期待は大きく、新築の時だけではなく、既存の建物でもUDの取り組みが求められています。



熊本県における高齢化率及び人口の年次推移  
※将来推計値は、国会社会保障・人口問題研究所推計値 (H9) を使用



様々な人でにぎわう街。誰も楽しめる街づくりが求められています。

※1ノーマライゼーションとは、年齢や障害のあるなしにかかわらず、すべての人が同じ社会の一員として、共に暮らしていけるような社会こそ当たり前の社会であるという考え方です。

## 既存の建物で求められるユニバーサルデザインの取り組み

誰もが利用しやすい建物でありたいと事業者は考えています。でも時代の変化の中で、利用者が減少しつつある建物もあります。その裏側にあるのは、確かに、設備はあるけど、使えない、使いづらいといった利用者の声。

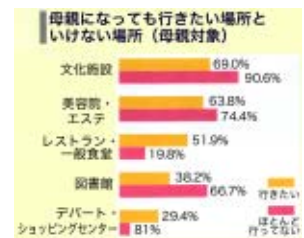
この事業者と利用者のすれ違いを無くすためにはユニバーサルデザインの取り組みが必要です。ユニバーサルデザインの視点から建物評価を行うことで顧客満足度を高め、新たな顧客の開拓につなげることが期待できます。民間企業の調査結果を含め、建物の利用者のニーズとして次のような意見が挙げられています。

### ◇ 母親になって行きたいのに行けなくなる場所

文化施設、美容室、図書館などは母親になっても行きたい場所ですが、実際にはなかなか行けない実状があるようです。

ニーズを満たす仕掛けづくりはありますか？

(資料：子育てバリアフリーガイドブック (コンビチャチャ (株)) )



### ◇ 高齢者が希望する利用しやすいトイレを設置して欲しい場所

病院、駅、スーパー、デパート、公園などは高齢者が外出先で利用しやすいトイレを設置して欲しい場所として挙げられています。

高齢者が安心して利用できる建物は、高齢社会の基本です。

(資料：バリアフリーハンドブック (TOTO))



### ◇ 障害がある人にとってトイレは外出そのものを左右する重要な場所です。

車いすのフットレストが壁に当たって手が届かない、設備機器の配置が悪くて車いすが近付き難い、服が脱ぎにくいなどの意見があります。障害者が利用できるトイレも「トイレがある」から「利用しやすいさ」に関心が変化してきています。(県での意見聴取会)



### ◇ ソフト面とハード面。利用者ニーズから考える新たな顧客の開拓

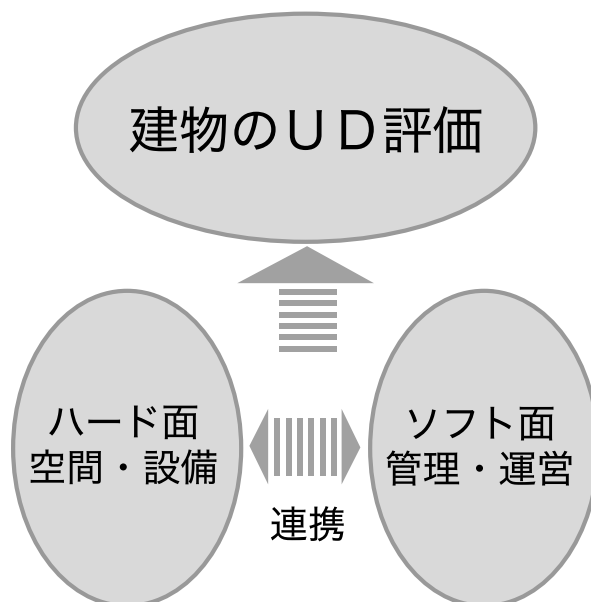
靴を脱がせる居酒屋が増えて困る(肢体不自由者)、値段表示のない店では購入しない(聴覚障害者)、商品の展示方法や通路幅のゆとりが入りやすさにつながる(視覚障害者)、トイレが心配の場合は短時間で買い物を済ませる(重度障害者)、ベンチは子どもに飲み物を飲ませるときに良く利用する(子育て中の主婦)。利用者の声が顧客開拓のポイントです。

(資料：商店街へのUD導入に関する調査 (熊本商工会議所))

## 1-2.UD評価の目的

既存の建物が利用しやすいかどうかについての印象（評価）は、目的の場所のわかりやすさや設備等の使いやすさというハード面の問題、また、建物の特性を活かした管理運営ができていないかというソフト面の対応も大きな要因となります。

このUD評価では、UDの観点から建物の現状把握を行い、建物のハード面及び管理運営等のソフト面の改善などによってより誰もが利用しやすい建物となることを目的としています。



## 1-3.UD評価の効果

UD評価を実施し、建物が利用しやすくなるようソフト的な面やハード的な面で改善を行っていくことで利用者の満足度が高まり、誰もが利用しやすい建物とすることができます。また、実際の建物でUD評価を体験することで、UDについて深く理解ができ、幅広い観点から検討を行うことができます。

UD評価は、誰が行うかによって、次の効果が期待できます。

### ①施設管理者によるUD評価

建物の現状把握を通して、優れた点や課題の明確化が図れるため、ハード面、ソフト面の対応策が立てやすくなります。また、建物利用者の参加によるUD評価を行う場合のポイントを絞ることができ、参加者負担の軽減を図ることが可能となります。

### ②建物利用者によるUD評価

直接的に利用者の意見（ニーズ）を把握することができ、改修計画など対応策の具体化や設計等の際に提案された内容や改善の実施結果の検証を行うことができます。

## 1-4.対象とする施設

不特定多数の人の利用が想定される公共施設や、日常的に利用する身近な民間の建物も対象としています。



安全に移動できるアプローチ



## 1-5.マニュアルの内容

このマニュアルは、既存の建物をUDの視点で検証・評価する際の方法や手順をわかりやすく示した手引き書です。標準的な内容を示していますので、建物の敷地や配置の状況、利用状況、管理状況等に応じて、評価の方法を変更しても構いません。

また、建物をつくる際に参考になるようにまとめた「ユニバーサルデザイン建築ガイドライン」と対応させてありますので、併せてお使いください。



つかう立場の  
熊本県  
「既存建築物のユニバーサル  
デザイン評価マニュアル」

つくる立場の  
熊本県  
「ユニバーサルデザイン建築  
ガイドライン」



ユニバーサルデザイン建築ガイドラインとこのマニュアルの関係

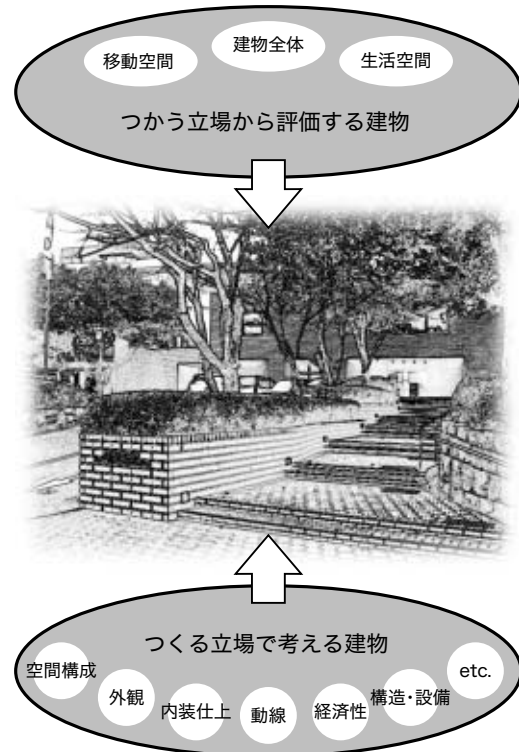
## 第2章 UD評価の仕組み

### 2-1. UD評価の基本的な考え方 ———— 利用者の視点から建物を評価

建物に関わる人の立場には、大きく分けると2つの立場（視点）があります。

- ① つくる立場（設計者、施工者、管理者）
- ② つかう立場（利用者、管理者）

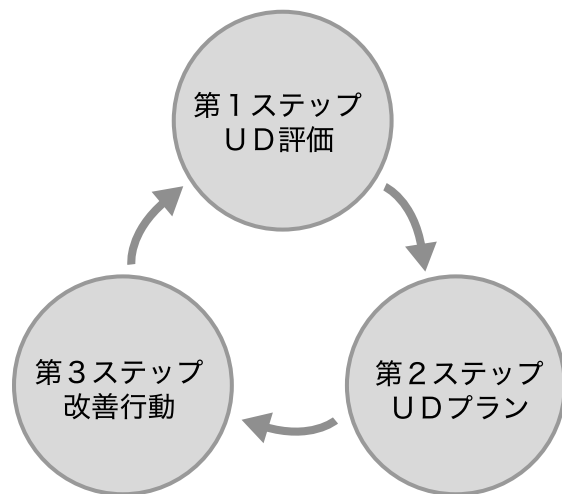
建物は、様々な条件の中で、その利用目的に応じた最良の提案がなされ、その特性を活かした管理運営が行われることが期待されています。しかし実際の建物で十分にその効果が現れているかどうかについては、建物をつかう立場で評価する必要があります。



「つくる立場（視点）」と「つかう立場（視点）」

### 2-2. UDサイクルの実施

ISO(※1)の国際規格や品質管理活動において特徴的な評価システム（PDCAサイクル(※2)）を参考に、評価結果から行動計画（UDプラン）を作成し、改善を行います。この過程(UDサイクル)を繰り返しながら、社会の変化とともに多様化する利用者ニーズを的確に捉え、より利用しやすい建物となることを目指します。



UDサイクルの実施

第1ステップでは、UD評価を行います。

第2ステップでは、評価結果を基にUDプラン（行動計画）の作成を行います。

第3ステップでは、UDプランをもとに改善行動を行います。

※1 ISO(International Organization for Standardization：国際標準化機構)とは、電気分野を除くあらゆる分野において、国際的に通用する規格や標準類を制定するために1947年に発足した国際機関。

※2 PDCAサイクルとは（plan（立案・計画）、do（実施）、check（検証・評価）、action（改善・見直し）の頭文字を取ったもの）行政政策や企業の事業評価にあたって計画から見直しまでを一環で行い、さらにそれを次の計画・事業にいかそうという考え方。

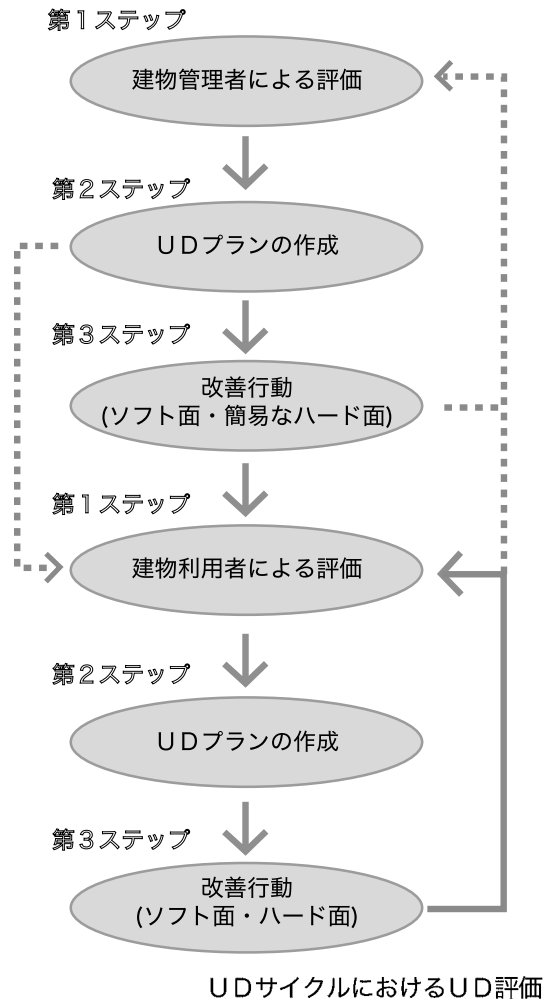
### 2-3. 施設管理者によるUD評価と建物利用者によるUD評価

このマニュアルでは、施設管理者が利用者からの意見を受身的に取り入れるだけでなく、自らがUD評価し、利用者の立場を経験することで、主体的にUDプランを作成できるように、2つのサイクルを一つの評価の流れとしています。

最初のサイクルでは、建物管理者が利用者の視点でUD評価を行い、施設の現状を把握することで課題に対する改善の方向性等をUDプランとしてまとめます。容易にできるソフト的な対応や簡易なハード面の対応などはこのプランに沿って改善行動を行うものです。

次のサイクルは、アンケートやワークショップの実施など建物利用者参加によるものです。特にハード面の改善を行う場合には、数値等を過信せず、利用者の率直な意見を把握し、計画に反映させます。

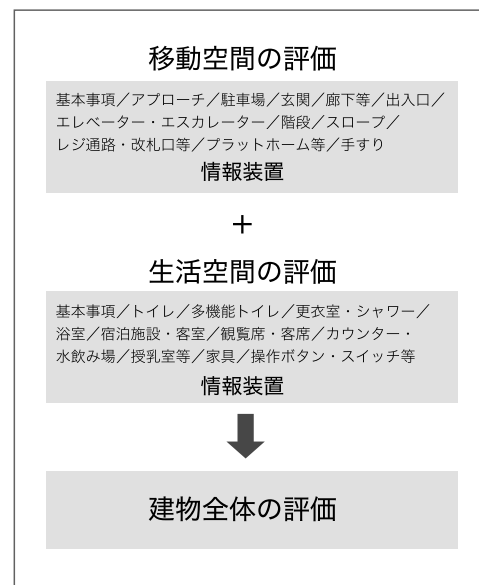
このように2つのサイクルを行うことで、利用しやすい建物に改善していくことが可能となります。



### 2-4. 評価の仕組み

UD評価は、建物全体を対象として行いますが、規模の大きな施設では、建物全体を包括的に評価することは困難です。

そこで、建物の部分（移動空間・生活空間等）ごとに、利用者の行動に焦点をあてながら各空間の評価を行い、その評価を積み重ねることで建物全体の評価へとつなぐ仕組みとしています。なお、ユニバーサルデザイン建築ガイドラインでは、建物空間とは別項目であった案内サインや点字ブロック等の情報装置も、現地調査では各空間に含めて評価を行います。



## 第3章 UD評価の方法

### 3-1. 身体的特徴による利用者(評価者)タイプ

UDは、誰もが利用しやすいデザインということですが、同時に様々な人の利用を想定しながら多くの評価を行うのは困難です。このマニュアルにおけるUD評価では、建物利用者として、来訪者、高齢者、車いす使用者、視覚障害者、子ども・乳幼児と一緒にの人を想定し、おのおの5つの視点から評価を行うこととします。なお、高齢者や障害者といっても、運動能力や症状は個人差が大きいため、施設管理者が建物利用者の視点で評価する場合には次の観点から行います。

#### 【利用者タイプによる評価の視点】

##### ○高齢者

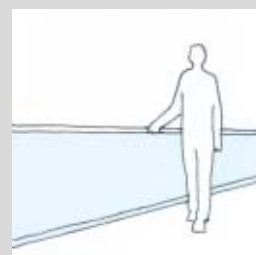
運動機能や感覚機能が弱くなったり、判断能力が低下した人を想定します。疲れやすくなったり、つまずきやすくなったり、また、目が見えにくくなったり、聞こえにくくなるなどの症状が考えられます。また、判断を要する場所では時間を要したり、動作がゆっくりとなることもあわせて評価します。

鍵やスイッチ類は、操作が簡単で大きめのものが好ましく、慣れない設備機器には使用説明などの記載や個々人のペースで判断や行動ができるよう、スペースに余裕があることも評価のポイントになります。

##### ○視覚障害者

弱視や全盲の人を想定します。弱視の人にとっては、案内表示や段差などがはっきりとわかるようにすることが必要で、また移動経路や生活空間は明るくすることも大事です。視野が狭い人を考えると、目線の高さに近い位置に案内表示があることが大切です。全盲の人にとっては、視覚情報以外に触覚や聴覚に係る情報提供が必要ですが、あまり複雑にならないように配慮してあるかも評価の対象です。

建物の立地状況や用途を考え、介助者が想定される場合には、介助者の同行を前提とした評価を行います。しかし、少なくとも人的な対応ができる場所までの移動や介助が困難な場所では一人で行動できるかどうかの評価を行います。様々な利用方法が想定される場合には、全盲の人と弱視の人を分け別々に評価するなど、施設にあった評価を行います。



### ○車いす使用者

段差があれば移動に支障をきたし、動作域（手の届く範囲）が狭いためドアの開閉がしにくかったり、案内サインを見る場合には、目線が比較的低いことも考慮する必要があります。横断勾配があれば直進することが困難であり、溝の間隔の広い側溝などは車輪を挟み込む危険性があります。移動や転回を行うためには、十分なスペースがあるかどうかを評価する必要があります。



車いすのフットレストが壁にあたって手が届かないことなどもあるため、車いすを使用した疑似体験では、無理のない姿勢で動作ができるかといった評価を行うことが大切です。

### ○子ども・乳幼児と一緒に人

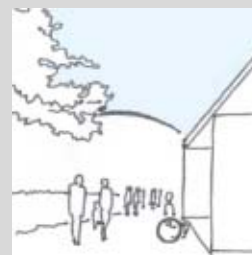
子どもは、動作域が狭かったり、目線も低く、また難しい標記は理解できない場合があります。ベビーカーを使用している人は、占有面積が大きく、段差があれば負担になります。また、乳幼児のおむつ替えや授乳に対する配慮がなされているかも評価のポイントになります。乳幼児を抱いて移動する場合は足元が見にくいことも考慮する必要があります。



建物の利用のされ方によっては、子どもの視点だけで評価したり、乳幼児と一緒にいる場合でもベビーカー使用の場合と抱いて移動する場合を分けて評価することも検討します。

### ○来訪者

はじめて建物を訪れる人、大きな荷物を持った人や外国籍の人を想定します。荷物が邪魔にならないか、案内表示がわかるかどうかを評価の対象とします。



注：建物の利用状況によっては、更に細かく利用者タイプを分けて評価を行います。



## 3-2. 評価の視点と指標

UD評価における視点としては、建物の特徴を簡単に捉えやすくするため、次の3つの点から主観的な判断により行います。

- ① 「わかりやすさ」
- ② 「利用しやすさ (つかいやすさ) 」
- ③ 「心地よさ (うつくしさ) 」

また、この3つの視点において評価する一般的な指標は次のとおりです。

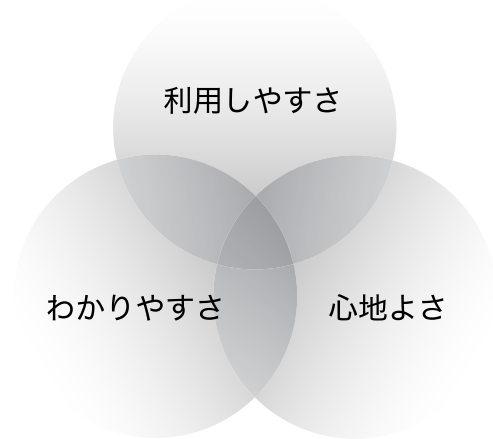
### 【評価の視点と指標】

- |                     |   |
|---------------------|---|
| ○わかりやすさ             | 1) 設置場所・利用方法等が直感的にわかりましたか<br>(自身の経験や推察と設置場所・利用方法は合致しましたか) |
|                     | 2) 設置場所・利用方法等が簡単にわかりましたか<br>(難しく考えることなく設置場所・利用方法がわかりましたか) |
| ○利用しやすさ<br>(つかいやすさ) | 1) 安心して安全に利用できましたか  |
|                     | 2) 間違いなく利用できましたか  |
|                     | 3) 自分のペースで利用できましたか  |
|                     | 4) 楽な姿勢で利用できましたか  |
|                     | 5) 楽な力で利用できましたか   |
|                     | 6) 身体的に疲れることなく利用できましたか                                    |
|                     | 7) 目や耳が疲れることなく利用できましたか                                    |
|                     | 8) ゆとりをもったスペースで利用できましたか                                   |
| ○心地よさ<br>(うつくしさ)    | 1) まわりを気にすることなく利用できましたか                                   |
|                     | 2) 気持ちよく快適に利用できましたか                                       |
|                     | 3) 美しい、清潔という印象を持ちましたか                                     |

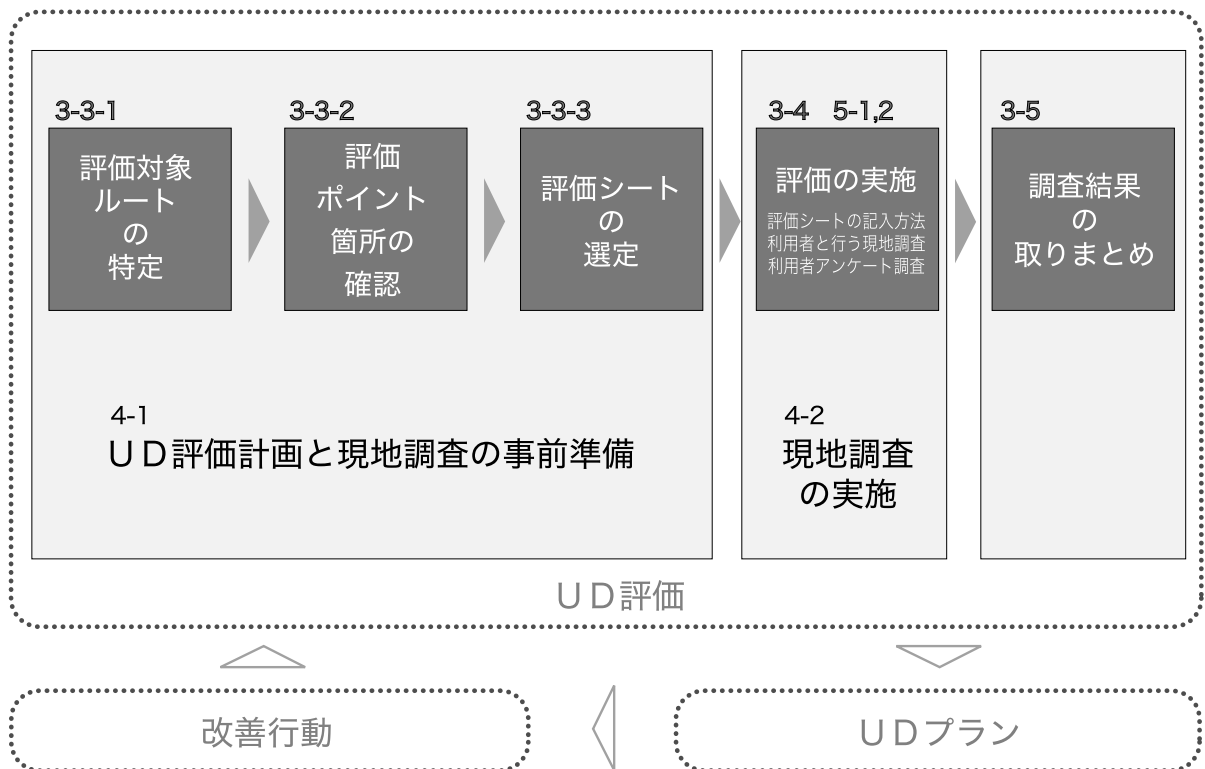
※ 資料p76 「さりげないデザインの評価の視点と指標」を参照

### 3-3. 評価の手順(フロー)

UD評価は、5つの利用者タイプを想定し、3つの視点から行います。実際の評価を行う手順(フロー)を図に示しますと以下のような手順となります。また、それぞれのステップとこのマニュアルの各部との対応も併せて示します。



5つの利用者タイプと3つの視点



### 3-3-1. 評価対象ルートの特定

UD評価は、不特定多数の人が利用する部分を対象とします。目的毎に建物の利用する場所、移動する経路が異なる場合には、まず利用目的を設定し、その目的に添った移動経路、居室等で評価を行います。一度に評価する建物の部分は、現地調査が1時間半程度で終わるよう設定することが適切です。それ以上に時間がかかる場合には、評価対象部分を数回に分けて評価することも検討します。



県立美術館アプローチ

#### 【評価時間の目安】

|                |           |
|----------------|-----------|
| 現地調査           | 1時間半 / 1回 |
| 評価結果の意見交換・整理   | 1時間半 / 1回 |
| 行動計画（UDプラン）の検討 | 適宜        |

### 3-3-2. 評価ポイント箇所の確認

人は、認知、判断、行動という一連の流れを繰り返しながら建物を利用します。

誰もが利用しやすい建物は、さまざまな人がこの一連の流れをスムーズに行えるということであり、まずは、バス停や駐車場等から目的の室まで建物利用者の動線（移動経路）を想定し、一連の流れを行う際のポイントとなる箇所を図面上で確認しておくことで評価が比較的スムーズに行えます。



県立美術館エントランスの券売機を操作する評価風景

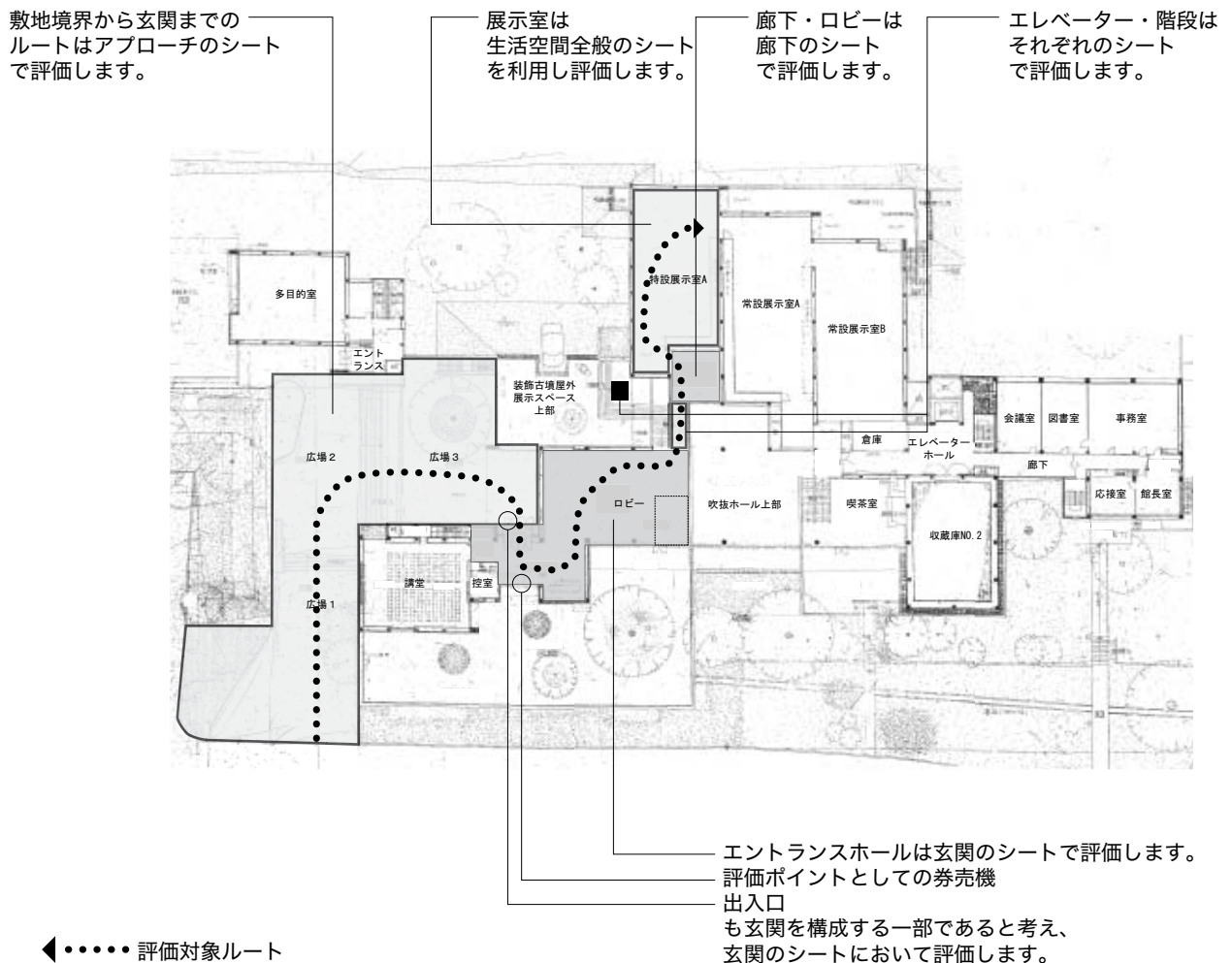
#### 【UD評価のポイントとなる箇所とは】

移動経路の分岐点など移動先を認知したり判断したりする場所や何らかの動作（ドアの開閉、券売機の操作等）を行う必要がある場所です。現地での実際の評価では、これらのハード面の評価とともに、心地よさやうつくしさといった感覚的な要素も重要な視点となります。

### 3-3-3. 評価シートの選定

建物のどの部分を評価するかを決めたら、評価する空間ごとに使用する評価シート(7章参照)を選択し、評価対象ルートに沿って評価シートの選択及び並べ替えを行います。

さらに、UD評価シートは、「ユニバーサルデザイン建築ガイドライン」に対応していますので、予めガイドラインを用いて、空間ごとに望まれる配慮事項等を把握しておくことで評価しやすくなります。



### 3-4. 評価シートの記入方法

評価シートは、それぞれの役割分担に従って、自分が担当する利用者タイプの立場で建物をわかりやすさ、利用しやすさ（つかいやすさ）、心地よさ（うつくしさ）の面から主観的な評価を記入します。

主観的な評価は、良い面や悪い面で気がついた点をコメント欄にまず記入し、3を標準にして5段階で評価します。

|        | 好ましくない ←                        | ←                      | ふつう                      | →                    | →                                 | 好ましい |
|--------|---------------------------------|------------------------|--------------------------|----------------------|-----------------------------------|------|
| 5段階評価  | 1                               | 2                      | 3                        | 4                    | 5                                 |      |
| 一般用語   | 非常に悪い<br>何の配慮も無い<br>やってはいけない悪い例 | 悪い<br>配慮が足りない<br>悪い例   | どちらでもない<br>どちらでもない<br>普通 | 良い<br>配慮されている<br>良い例 | 非常に良い<br>良く配慮されている<br>他のお手本となる良い例 |      |
| わかりやすさ | わからない<br>理解不能                   | わかりにくい<br>難解           | わかる<br>理解できる             | わかりやすい<br>平易         | よくわかる<br>親切丁寧                     |      |
| 利用しやすさ | 利用できない<br>使えない                  | 利用しにくい<br>使にくい         | 利用できる<br>使える             | 利用しやすい<br>使いやすい      | 非常に利用しやすい<br>非常に使いやすい             |      |
| 心地よさ   | 心地悪い<br>不快<br>汚い                | 少々心地悪い<br>少々不快<br>少々汚い | ふつう<br>普通<br>普通          | 心地よい<br>快適<br>きれい    | 非常に心地よい<br>非常に快適<br>大変きれい         |      |

建物を評価する場合、悪い点ばかりが気になりますが、他の建物の参考となるように良い点についても積極的に記入していくことが大切です。例えば、案内サインがない場合でも、すぐにマイナス評価をするのではなく、サインが無くてもわかりやすければ、プラスに評価することも考えられます。また、日常的に利用している自動ドアも、開閉幅や開閉速度が適切であれば、出入りしやすいという評価ができます。

なお、視覚障害者、車いす使用者及び高齢者の視点で評価する人は、できる限り装具等を使用し、疑似体験を行うと問題意識の共有が図りやすくなります。



視覚障害者疑似体験による評価



車いす疑似体験による評価

移動空間(1)

評価日: 03. 08. 19. 場所: 東アプローチ

アプローチ 02

評価者(利用者・視点): 該当する利用者の視点に丸印をつけてください。  
 来訪者 高齢者 車いす使用者 視覚障害者 親子連れベビーカー使用者 ( )

| ←わかりにくい |             | わかりやすさ  | わかりやすい→   |
|---------|-------------|---|-----------|
| 気になる点   | サインが小さく、少ない | 1 2 3 4 5<br><input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> | 建物の見通しはよい |
|         |             | ■評価のポイント<br>・施設入口への移動経路は直感的に、又は簡単にわかりましたか？<br>・案内表示(サイン)はわかりやすかったですか？   |           |
|         |             |   |           |
|         |             |   |           |
|         |             |   |           |
|         |             |   |           |
|         |             |   | 良い点       |

# 記入例

| ←利用しにくい |              | 利用しやすさ(つかいやすさ)  | 利用しやすい→      |
|---------|--------------|---|--------------|
| 気になる点   | 舗装のめくれに引っかかる | 1 2 3 4 5<br><input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> | スロープ勾配は緩くて良い |
|         | 排水溝穴に車輪がはまる  | ■評価のポイント<br>・交通事故や転倒などの危険を感じないで安心して移動できましたか？<br>・勾配などが適切で楽に移動できましたか？<br>・移動するために十分なスペースがありましたか？<br>・雨天や炎天下の時の移動も支障はありませんでしたか？         |              |
|         | 遠回りしなければならない |   |              |
|         |              |   |              |
|         |              |   |              |
|         |              |   |              |
|         |              |   | 良い点          |

| ←心地よくない |  | 心地よさ(うつくしさ)   | 心地よい→ |
|---------|--|---|-------|
| 気になる点   |  | 1 2 3 4 5<br><input type="radio"/> <input type="radio"/> <input checked="" type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> |       |
|         |  | ■評価のポイント<br>・みんなと同じ経路で移動できましたか？<br>・気持ちよく快適に移動できましたか？<br>・明るいと感じましたか？<br>・うつくしい(きれい、清潔、心地よい)と感じましたか？                                  |       |
|         |  |   |       |
|         |  |   |       |
|         |  |   |       |
|         |  |   |       |
|         |  |   | 良い点   |

| 備考: その他(安全性等)に関して気づいた点 |                      |
|------------------------|----------------------|
|                        | (幅員等参考数値)            |
|                        | ・車いす使用者同士のすれ違い 180cm |
|                        | ・傘をさした人同士のすれ違い 230cm |
|                        | ・横断勾配 1/100以下        |
|                        | ・サイン関係の参考数値は別途あり     |

評価シートの記入例

## 3-5. 調査結果の取りまとめ

### ①現地調査の取りまとめ

参加者が作成したそれぞれの評価シートは、参加者全員が内容を確認しながら取りまとめシートにまとめます。取りまとめシートは、主観的な評価項目のほかに、客観的な評価項目及び課題と実施したいアイデアからなります。

### ②主観的評価結果の取りまとめ

評価が終わったら、取りまとめの代表者を選定します。評価参加者は、担当する利用者タイプごとに、わかりやすさ、利用しやすさ（つかいやすさ）、心地よさの五段階評価の評価結果と、気がついたコメントを発表し、取りまとめの代表者が場所毎の評価取りまとめシートに記入していきます。

評価結果を確認しあうことで情報の共有化が図られ、ハード面の良い点や課題が明らかになり、今後実施したい具体的なアイデアが生まれてきます。

### ③客観的評価結果の取りまとめ

建物利用上の危険性や視覚や聴覚に障害がある人でもわかるような複数の手段による情報提供などは、建物利用者の症状によって評価が異なるため、UD評価参加者による主観的な評価結果を参考にしながら、施設管理者が客観的な視点から評価します。

### ④評価結果からの考察について

利用者タイプの立場で第三者が評価することに限界があります。このため、利用者タイプ間の5段階評価の点数の差を検証することより、評価を行った人が、より良い（或いはより悪い）として判断した理由を一つ一つ考察していくことに大きな意味があります。

この評価に至った要因を深く掘り下げていくことで、本質的な課題の把握が可能となり、ユニバーサルデザインの視点に立った行動計画を作りあげていくことができます。

### ⑤次回以降の評価について

同じ評価対象部分を数回に亘り評価する場合には、同じ取りまとめシートに色表示を変えて記載し、データ数の増加により、評価結果の精度を上げ、改善状況を確認します。

02：アプローチ

評価日: 03.08.19.

場 所:東アプローチ

※整理番号、施設名又は評価対象場所を記入してください

| ←わかりにくい               |               | わかりやすさ          |   |   | わかりやすい→ |   |   |            |            |     |
|-----------------------|---------------|-----------------|---|---|---------|---|---|------------|------------|-----|
| 気<br>に<br>な<br>る<br>点 | 誘導サインが見にくい    | 来訪者             | ① | ② | ③       | ④ | ⑤ | 1名         |            | 良い点 |
|                       | 建物の入口がわかりづらい  | 高齢者             | ● | ● | ●       | ● | ● | 1名         |            |     |
|                       |               | 車いす<br>使用者      | ● | ● | ●       | ● | ● | 1名         |            |     |
|                       | 誘導Bがなく移動経路が不明 | 視覚<br>障害者       | ● | ● | ●       | ● | ● | 疑似体験<br>1名 | 芝生以外がアプローチ |     |
|                       | サインが小さく、少ない   | 親子連れ<br>ベビーカー利用 | ● | ● | ●       | ● | ● | 疑似体験<br>1名 | 建物の見通しがよい  |     |

| ←利用しにくい               |                  | 利用しやすさ(つかいやすさ)  |   |   | 利用しやすい→ |   |   |            |           |     |
|-----------------------|------------------|-----------------|---|---|---------|---|---|------------|-----------|-----|
| 気<br>に<br>な<br>る<br>点 | 誘導サインの文字が小さい     | 来訪者             | ① | ② | ③       | ④ | ⑤ | 1名         |           | 良い点 |
|                       | 排水溝穴が大。舗装の捲れ     | 高齢者             | ● | ● | ●       | ● | ● | 1名         |           |     |
|                       | 排水溝穴が大。フェンスが高い   | 車いす<br>使用者      | ● | ● | ●       | ● | ● | 1名         |           |     |
|                       | 段鼻がみにくい。経路上にタクシー | 視覚<br>障害者       | ● | ● | ●       | ● | ● | 疑似体験<br>1名 |           |     |
|                       | 舗装めくれ、排水溝穴。遠回り   | 親子連れ<br>ベビーカー利用 | ● | ● | ●       | ● | ● | 疑似体験<br>1名 | スロープ勾配は緩い |     |

| ←心地よくない               |  | 心地よさ(うつくしさ)     |   |   | 心地よい→ |   |   |            |  |     |
|-----------------------|--|-----------------|---|---|-------|---|---|------------|--|-----|
| 気<br>に<br>な<br>る<br>点 |  | 来訪者             | ① | ② | ③     | ④ | ⑤ | 1名         |  | 良い点 |
|                       |  | 高齢者             | ● | ● | ●     | ● | ● | 1名         |  |     |
|                       |  | 車いす<br>使用者      | ● | ● | ●     | ● | ● | 1名         |  |     |
|                       |  | 視覚<br>障害者       | ● | ● | ●     | ● | ● | 疑似体験<br>1名 |  |     |
|                       |  | 親子連れ<br>ベビーカー利用 | ● | ● | ●     | ● | ● | 疑似体験<br>1名 |  |     |

| その他の視点：安全性等の客観的評価 |                              |      |   |   |   |   |   |      |                  |
|-------------------|------------------------------|------|---|---|---|---|---|------|------------------|
| コ<br>メ<br>ン<br>ト  | 車道と歩道が交差し、視認性が低い<br>床が雨で滑る   | 危険   | ① | ② | ③ | ④ | ⑤ | 安全   | コ<br>メ<br>ン<br>ト |
|                   | 視覚障害者への配慮が不足<br>外国籍の方への情報が不足 | 単一情報 | ● | ● | ● | ● | ● | 複数情報 |                  |

| 今後の課題 |                              | 今後実施したいアイデア |       |
|-------|------------------------------|-------------|-------|
| ○     | 具 体 策                        |             | 課 題 等 |
|       | 1. 床が雨天時に滑ることへの対策            |             |       |
|       | 2. サインがわかりづらい(視覚障害者対応、外国語対応) |             |       |

# 記入例

| 特記事項  |   |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>このシートは、評価の取りまとめに使用する標準書式です。</li> <li>評価シート全体の構成                     <ul style="list-style-type: none"> <li>シート上段の「わかりやすさ」「利用しやすさ」「うつくしさ」は主観的な評価をまとめる部分です。</li> <li>シート下段のその他の視点以下は、上段の主観的な評価結果を基に可能な限り客観的に評価し記入します。</li> </ul> </li> <li>安全性については、危険要素の隔離、事故の予防、警告システムの用意、事故発生時の安全の確保、あらゆる安全性への配慮の指標により評価します。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>今後の課題を記入する際には、上段の主観的な評価結果のバラツキ度合いから公平性等も読みとり参考にします。</li> <li>そのポイントは                     <ul style="list-style-type: none"> <li>「わかりやすさ」：五感に訴えるデザイン、複数手法の情報提供</li> <li>「利用しやすさ」：利用方法の自由度</li> <li>「心地よさ」：公平な利用、選択肢の提供</li> </ul> </li> </ul> |

取りまとめシートの記入例



## 第4章 施設管理者によるUD評価

### 4-1. UD評価計画と現地調査の事前準備

UD評価を実施する現地調査は、建物内外を見て回りますので、身体的負担を減らすためにもできるだけ気候の安定した時期に設定します。その事前準備としては、評価場所を選定し、5人以上の参加者を募り、現地調査に使用する器材等を用意する必要があります。

現地調査を行う前には、調査当日の流れを説明するオリエンテーリングを行い、調査後に取りまとめを行う必要がありますので、グループ討議ができるよう参加者の数に応じた会場を確保する必要があります。

調査結果を受けた改善提案を検討する場合のワークショップ等は、調査結果の整理に要する期間を経て、別途開催します。

現地調査に先立ち、具体的には以下のような準備を行います。

#### 1) 調査シートの作成

現地調査シート（A3サイズ）は、現地調査をする場所ごとに、左側に評価シート（A4サイズ）を、右側に対応する場所の平面図（A4サイズ）を配置したものを作成します。現地調査で感じたことをそのまま平面図に記入することができますので、図面はできるだけスケールの大きなものを準備します。

#### 2) 参加者の役割分担の決定

現地調査には、5人以上の参加者を募りますが、10人を超える場合にはグループ分けを行い、グループ単位で調査を行うことが効率的です。

現地調査では、5人の利用者タイプで評価を行いますので、参加者が誰の視点で評価を行うか役割分担を決め、その中から取りまとめを行うためのリーダーを選定します。高齢者疑似体験装具を使用して調査を行う場合には、調査シートの記入が困難になるため、装具の装着者をサポートする人がいると現地調査が円滑にできます。

#### 3) 現地調査に使用する器材等の準備

現地調査参加者に当日配布するものは、当日のスケジュール、現地調査シートの記入方法及び5人の利用者タイプごとの評価の視点と指標を記載した資料、現地調査を行う順番に並び替えた現地調査シート、シートに記入するための画板又はファイルです。

通路幅や床の勾配を現地で計る必要がある場合には、スケールや勾配計を用意します。

参加人数が多い場合には、名札を用意し、グループ毎に色分けをするなど、グループ行動が行いやすいようわかりやすさに配慮する必要があります。

また、高齢者疑似体験装具や車いすは、県内の機関で貸し出しサービスが行われていますので、現地調査の日程が決まったら早めに予約する必要があります。

## 4-2. 現地調査の実施

現地調査の当日は、参加者を確認し、当日の日程、現地調査の場所、現地調査シートの記入方法を説明し、グループ単位で参加者全員が一緒に行動します。

雨天時には、高齢者疑似体験装具の装着者のほか、車いす使用者にもサポートが必要となります。

現地調査では、参加者同士のコミュニケーションを図ることがポイントです。評価シートに記載された評価のポイントを参考に会話をしながら評価を行うと、より多くの意見を引き出すことができます。

一つの場所から次の場所へ移動する際には、高齢者疑似体験装具の装着者など、時間を要する人に合わせることで、心のユニバーサルデザインを広げる上でも基本となります。



現地調査シート他の事前準備品



役割分担をして現地調査

### 【高齢者疑似体験の研修、装具の貸出先】

- 1 社会福祉法人熊本県社会福祉事業団  
熊本県身体障害者福祉センター  
熊本市長嶺南2-3-2  
096-383-6533
- 2 熊本県介護実習・普及センター  
熊本市南千反畑町3-7  
096-354-3091



現地調査結果の取りまとめ

## 第5章 建物利用者によるUD評価

### 5-1. 利用者で行う現地調査

建物利用者と一緒にする場合のUD評価の方法は、施設管理者が行う場合と基本的には同じですが、施設管理者による評価結果を活用し、評価したい内容や場所を絞り込むなど、参加者の負担を減らす配慮をして下さい。

参加者は、5つの利用者タイプに属する人を基本としますが、施設の利用実態や評価目的を考慮しながら評価に参加する人を決め、同じ利用者タイプの人でもできるだけ多くの人の参加を促して下さい。

UD評価は、評価する人の主観的な判断に大きく左右されますから、数度に分けて評価を行う場合には、参加者が特定の人だけに偏らないよう配慮することで客観性を高める必要があります。評価シートは、施設管理者による場合と同じ評価シートを使用しますが、各評価シートごとに示した「評価のポイント」にとらわれる必要はなく、参加者が主観的判断で感じたことを率直に評価してもらうように伝えて下さい。

#### 障害がある人への配慮

障害のある人と一緒に現地調査を行う場合は、その人のペースで評価が行えるよう余裕を持った時間設定を行って下さい。

障害の状態は個人差が大きいため、事前に障害の内容やコミュニケーションの手段を確認します。疲れやすいという状況も考慮し、身体や特定の感覚機能に大きな負担がかからないように評価対象部分やテーマを限定したり、少人数グループで行動し、介助者ではなく本人との直接的な対話を通して意見をいただきます。



県庁での現地調査風景

### 5-2. 利用者アンケート調査

建物利用者によるUD評価については、利用者と一緒に現地調査の他にアンケートによる調査があります。

設備機器等の使いやすさなど個別具体的な事項を検証する場合は、利用者と一緒に現地調査が効果的で、多くの人の意見から利用者ニーズを把握する必要がある場合には、アンケートの実施が有効です。

目的に応じて、どのような方法で利用者ニーズを把握する方が良いのか十分検討して下さい。アンケートによって利用者ニーズの把握を行う場合には、評価対象とする空間を選択し、標準様式を利用したアンケート用紙を使用します。

アンケートの実施結果とその対応については、必ず公表して下さい。

整理番号 熊本県ユニバーサルデザイン評価アンケート用紙 記入日 月 日

県では、この建物がより誰もが利用しやすくなるよう、利用者の皆様のご意見をもとに建物の設備やサービス面で改善する点がないか検討していきたくと考えています。  
つきましては、本日ご利用になった部屋等について、わかりやすさ、利用しやすさ、心地よさの観点から、お気づきになった良い点、悪い点をご記入いただき、5段階評価をお願いします。

■ 目的の部屋やトイレまでの移動する経路について

| 悪い点で気が付いた点 | 5段階評価                      | 良い点で気が付いた点 |
|------------|----------------------------|------------|
|            | わかりやすさ<br>1 2 3 4 5        |            |
|            | 利用しやすさ・つかいやすさ<br>1 2 3 4 5 |            |
|            | 心地よさ・うつくしさ<br>1 2 3 4 5    |            |

■ 本日ご利用された部屋について（室名 \_\_\_\_\_）

| 悪い点で気が付いた点 | 5段階評価                      | 良い点で気が付いた点 |
|------------|----------------------------|------------|
|            | わかりやすさ<br>1 2 3 4 5        |            |
|            | 利用しやすさ・つかいやすさ<br>1 2 3 4 5 |            |
|            | 心地よさ・うつくしさ<br>1 2 3 4 5    |            |

■ トイレについて

| 悪い点で気が付いた点 | 5段階評価                      | 良い点で気が付いた点 |
|------------|----------------------------|------------|
|            | わかりやすさ<br>1 2 3 4 5        |            |
|            | 利用しやすさ・つかいやすさ<br>1 2 3 4 5 |            |
|            | 心地よさ・うつくしさ<br>1 2 3 4 5    |            |

□ 建物の設備やサービス面の改善で具体的なアイデアがありましたらご記入をお願いします。

|  |
|--|
|  |
|  |
|  |
|  |
|  |

■ 記入例

| 悪い点で気が付いた点         | 5段階評価         | 良い点で気が付いた点                |
|--------------------|---------------|---------------------------|
| 玄関の床マットにつまずいた。     | 利用しやすさ・つかいやすさ | ドアが自動ドアであった。              |
| 階段の段がちょっとわかりにくかった。 | 1 2 3 4 5     | ロビーが広く、ベンチもあり、ゆっくり休憩ができた。 |

※アンケートにご記入いただき、大変ありがとうございました。

※  の枠内は、調査の対象や目的で変更する内容です。